

富谷小だより

渋谷区立
富谷小
学校通信

ちがいやよさを認め合う、生かし合う

校長 石川 亜由美

「笑顔と元気、大爆発！白熱！スポーツフェスティバル」。このスローガンのもと、本校では今、6月1日に行う富谷スポーツフェスティバルに向けて、全校一丸となって取り組んでいます。

団体競技では、競技を行って見た後、どうしたら勝てるのか、一人一人、あるいはペアやチームで考えたり作戦を立てたりする時間をつくっています。この時間があることで、競技の特性に応じてよりよく動くことを意識できるようになります。また、ペアやチームの友達を思いやったり、得意なことを生かし合ったりする気配りや行動も生まれています。

表現では、教えられた動きを繰り返し練習するだけでなく、友達同士で見合い、上手なところを伝えたり、「こうするといいよ」とアドバイスしたりする過程も踏んでいます。上学年では、実行委員会をつくり、委員の児童を中心に準備や練習を進めてきました。グループで創作した表現があるところも見どころの一つとなっています。

6年生は、様々な系の役割も担い、責任感をもって取り組んでいます。縁の下の力持ちとして活躍する姿にも注目してください。

このように、本校では、子供たちの力でスポーツフェスティバルをつくり上げることを大事にして、指導や支援をしています。当日は、大きな拍手と声援をどうぞよろしくお願いします。



さて、6月は東京都教育委員会が定めている「ふれあい（いじめ防止強化）月間」です。4月の保護者会の際に、各学年担任から本校の「いじめ防止基本方針」を説明しましたが、ここで改めていじめの定義をお示しします。

この基本方針において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等、当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

「いじめは、どの学校でも、どの学級でも、どの子供にも起こりうるものであり、いじめ問題に無関係ですむ子供はいない」ということを基本認識として、一見些細に見えることであっても、見逃さずに対処するように努めています。それと同時に、「いじめは人権侵害であり、絶対に許されない行為である」ことを子供たちが認識できるように指導し、「自分も周りの人も大切にできるような学級」「居場所のある学級」づくりに努めています。

「返事や挨拶（おはよう等の挨拶だけでなく、ありがとう、ごめんなさいの言葉も含めて）を気持ちよくすること」、「相手を思いやった言葉遣いをする事」を子供たちに日常的に伝えていきます。子供たちは、耳に入る言葉をまねて遣います。私たち大人は、自分たちの遣う言葉や子供たちの耳に入る言葉を見直したりその意味を伝えたりする必要があるように思います。

また、「人の話を最後までしっかりと聞くこと」も繰り返し指導しています。人の話を最後まで聞くということは、相手を尊重しようとする気持ちの表れです。自分の考え方とは違っていても、最後まで聞くことで、相手の思いや考えを理解し、自分にはない発想を自分の中に取り入れることにもつながります。

返事や挨拶、思いやった言葉遣いをする、話を聞くことは、良好な人間関係を築くとともに、いじめを生まない集団づくりにも大切なことです。